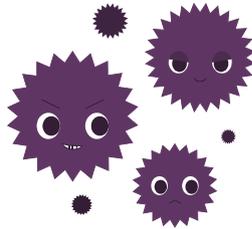


ヘルパンギーナ

夏カゼの一種で、急な発熱とのどの水疱が特徴です。

主にコクサッキーウイルスによって起こりますが、ウイルスが数種類あるため、一度かかってもまたかかってしまうことがあります。

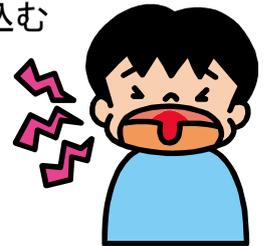


<病気の特徴>

潜伏期は2～4日、初夏から秋にかけて多く見られます。突然、38～40℃の発熱が1～3日間続き、全身倦怠感、食欲不振、咽頭痛、嘔吐、四肢痛などの症状がある場合もあります。

のどは、軽度に発赤し、扁桃のあたりに1～5mmの小水疱ができ、これがつぶれてカイヨウになります。

カイヨウになると、ひどくしみてかなり痛みがあり、唾液を飲み込むこともできなくなります。そのため、よだれが多くなったり、のどが過敏な子は吐くこともあります。



<注意すること>

ヘルパンギーナは高熱とのどの痛み以外の症状は軽いため、あまり心配はいりませんが、のどの痛みにより水が飲めないためにおこる脱水症状に注意しましょう。

熱は2～3日で下がり、カイヨウも1週間ほどで治ります。最初の数日は食事を受け付けないほどのどが痛むので、その時には白湯や麦茶などをこまめに与えましょう。



詳しくはこちら(国立感染症研究所感染症情報センター)

http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_08.html